

事例④ 株式会社清水組
労務管理を紙からデジタルへ。効率化の第一歩を踏み出す。



BEFORE

出勤簿/給与計算など、労務管理のために
毎月手書きで資料作成していた。

AFTER

CSVファイルの活用で、データ入力が一回
で済み生産性が大きく向上。

【取材担当者からのコメント】

「デジタル化と言われるが、そもそも何を目的に活用するのか納得感がない」
「AI・RPAなど技術がありすぎて、一步を踏み出すのに時間がかかる」
そんな課題感をお持ちの企業様に参考に頂ける事例です。

「労務管理を紙からデジタルへ。効率化の第一歩を踏み出す。」

- | | | | |
|------------|---------------------------------------------|-------|-----------------|
| ■ 業種／業界： | 建設 | ■ 創業： | 1905年（秋田県本社） |
| ■ 社員数： | 70名 | ■ 代表： | 清水 隆成氏 |
| ■ 商品・サービス： | ①建設業(土木・建築)
②不動産業
③内航海運業
④産業廃棄物処理業 | ■ 標語： | 「ゆたかさ創造 やさしさ創造」 |



● デジタル化に取り組む背景

- 1905年に創業し、110年以上が経つ当社。船を使った工事を得意分野として、地元でA級と認定され建設業を営んでいる。
- 建設は公共事業であるため、ビジネスのポイントは利益率の向上。例えば現場の段取り力が高まり生産性が高まれば利益に直結する。このように、生産性を高められる、コストを抑えられる、という目的にデジタルを使える部分があればと、取り組んでいる。

支援前の状況・課題

- 契約書や事務的な書類、関連会社とのやりとりは紙中心だった当社。毎月資料作成に追われてしまう状況を、効率化したいと考えていた。
- 業界も県もデジタル化推進サポートをしていたため、今回、本事業を活用し、デジタル化による改善を検討。情報収集で知った「RPA」を活用し、出勤簿/給与計算など、労務管理をデータベース化できないかとIT専門家に依頼した。

支援内容とその後の成果

- RPAを活用することで、労務管理をデジタル化しようとした。しかし、RPAを使うほどの作業ではなかったため、一度紙で集めた情報をCSVデータにし、その語はそのデータをもとに各種集計表にデータを変換することで、データ入力がかつた回数になり生産性が向上した。また一方で、RPAに必要な学習プロセスの業務を社内で行っている人が少ないため、学習サイクルが回りづらいという課題に気づくことができた。
- 引き続き、コスト削減に繋がる可能性があれば、必要なデジタルツールの導入は検討したいと考えている。

デジタル化を推進し続けるための工夫・ポイント

● デジタル化は目的ではなく、あくまで手段の1つ

デジタル化を目的ではなく手段と捉えている。まずやってみて、合わないなら他の手段で、と柔軟に進めている。

● まずやってみる文化

「犬も歩けば棒に当たる」と言うように、何かやれば何かに繋がるのではないかと考えている。通常業務以外のことであっても、社員から「こういうことをやってみたい」という話が出れば、止めずにやってみさせる文化がある。これにより現場に必要な取組を素早く選ぶことができる。

今後デジタル化で目指したいこと

- より効率の良い仕事をするために大事なものは、採用と育成。ここ5年ほど新卒も含め採用が順調に進んでいるので、より生産性高く現場を段取りできるような人材に育てていくため、所長と若手を組ませて背中を見せながら育てている。
- 今後については、建設業界に世間が持つ土木のイメージを変えていけるような企業プロモーションに取り組む過程で、一部デジタルも活用していきたい。